

# 731通信

## 36号

731部隊被害者遺族を支える会

連絡先 東京都新宿区新宿1-6-5シガラキビル

9Fピープルズ法律事務所内

### 日本軍細菌戦部隊731とはどんな部隊であったか -さいきんの研究からみえてきたこと-

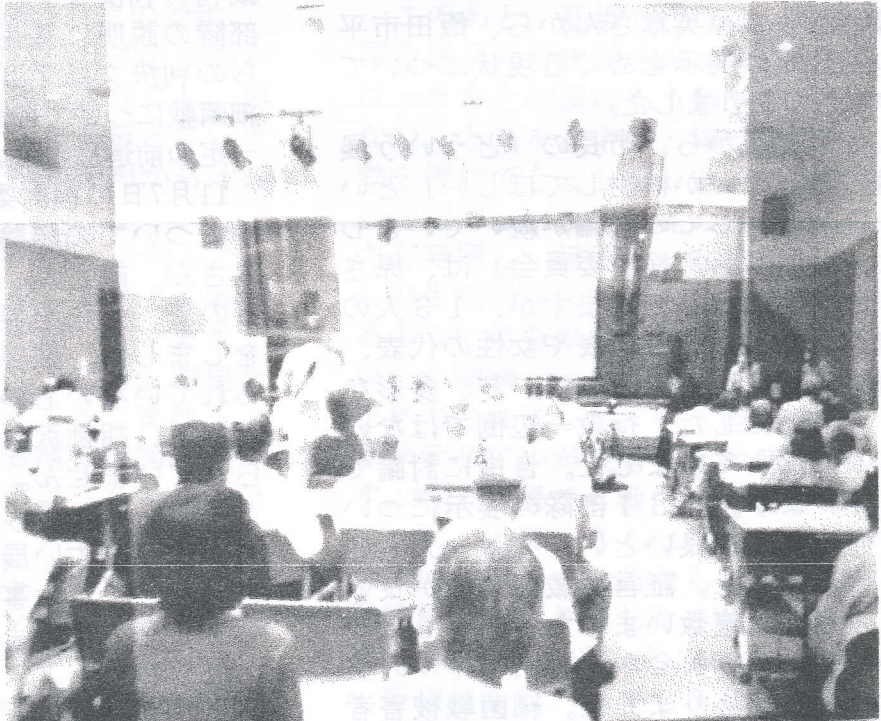
11月17日、731ネットワークの連続学習会がオンラインで開かれました。今回は、7月30日に長野県飯田市で開かれた飯田市平和祈念館問題を考える会主催の学習会「日本軍細菌戦部隊731部隊とはどんな部隊であったか・・さいきんの研究からみえてきたこと」という題で滋賀大学名誉教授の西山勝夫さんのお話を画面上で伺いました。その上で長野県飯田市の平和祈念館の731部隊の展示の問題の現状を現地からうかがいました。

西山さんは、さいきんの医学研究の動向について話され、2006年に「15年戦争と医学研究会」が立ち上げられ、戦争と医学の問題を議論していこうとなりました。人間の尊厳が蹂躪された人体実験について考えてみます。731部隊は四国出身者が多く、1921年生まれが多くいました。戦争が激化した40年代前半に若者に

なっています。

ナチスでは精神障がい者が人体実験の対象とされました。2010年に追悼集会が開かれました。

日本でも医学界の戦争加担が問題になっていきました。留守名簿の存在があきらかになり、2016年に公開されました。この名簿はGHQも入手していました。後に北海道副知事になった長友波男は優生保護法による強制不妊手術を実行していくのです。731部隊



の友軍として南京の栄1644部隊、北京1855部隊、シンガポールの南方軍防疫給水部などがありました。

731部隊の構成は医学者130名、技師50名、兵1,099名、雇員1,500名となっています。その中で、医師は大学関係者が多数いたことがわかりました。京都大学133名、慶応大学・東京大学などが多くいました。このなかの医師の論文で「ペストに感染したノミの媒介能力」というサルを使った実験で、頭痛・発熱・食欲不振を訴えた、という記述がありました。サルが頭痛を訴えるで

しょうか。この実験のサルは人体実験のヒトではないか、という疑問がでて、京都大学で調査しましたが「サルだと否定できない」と言って、黙認してしまいました。

細菌戦に関する事実関係は隠蔽されたままです。戦争の医療犯罪というべきものの全貌があきらかになってはいません。

欧米では過去の奴隷制への謝罪などがすすんでいます。さいきんでは、オランダ国王が過去のアフリカへの侵略の反省を表明しています。

## 飯田市の平和祈念館の展示 をめぐる議論

この西山さんの講演のビデオを見た後、長野県飯田市の平和祈念館問題を考える会の原英章さんから、飯田市平和記念館の展示をめぐる現状についての報告がありました。

今年1月から、市長の「どうい展示したらよいか検討してほしい」という諮問に対しての議論が続いていました。「展示活用検討委員会」は、原さん自身も参加していますが、13人の委員の内訳は若者代表や女性の代表、満蒙開拓帰還者の方もはいる、多彩なメンバーでした。行政一辺倒ではないものになっていました。自由に討論できています。731部隊の展示について今ままで良いという人は一人もいませんでした。証言も載せた方が良いという人も複数いました。そうしたなかで、教育委員会から説明パネルの文章の提案がありました。細菌戦被害者裁判の判決文をわかりやすくしたものが提案されました。

この提案を了承し、現在は、東京の裁判の判決文を引用したものが731部隊の説明に採用されています。これらの判決文は731部隊の人体実験・細菌戦についての説明もついています。一定の前進になったと思います。

11月7日の検討委員会では、証言パネルについての議論になりました。胡桃沢さん、越さん、清水さんの証言があるので、それを展示したいという提案をしました。教委は「遺族の了解がえられていないものもある」ということでした。胡桃沢さんの遺族の了解は得られていません。この議論のなかでは「子どもたちがみた時にどうなのか？ わかりやすい展示になっているか、ということが大事だ」という議論もありました。今後まだ議論を続けることになります。

# 日中永久不再戦のために

## 日中友好平和条約45年

日本軍が中国を侵略し、敗戦しました。宣戦布告もせず中国に軍隊をすすめ、一千万人以上の中国市民の命を奪いました。そのあげくは、1945年の敗戦です。日本軍は中国軍から武装解除を受け、南京と瀋陽の裁判で、戦犯の処刑を受けました。その後、シベリア送りとなった日本兵が新生中国に移管され、撫順の戦犯管理所でその残虐行為を告白し、1956年の瀋陽の裁判で起訴猶予の判決を受け、一人の死刑も出さずに全員が帰国を果たしました。

その後、1972年に日中共同声明で結ばれ、日本と中国の国交回復がなりました。さらにその6年後の1978年に日中友好平和条約が締結されたのです。

この友好平和条約は、日本と中国がお互いに脅威とならないようにし、再び戦争をおこさないことを誓っています。今年はこの友好平和条約から45年になります。

ところが、今「台湾有事」を叫んで、中国に近い、南西諸島にミサイル基地を増強し、自衛隊を配備しています。中国軍が台湾に攻めてきたら、沖縄などの南西諸島が戦争にまきこまれる、というのです。今、台湾の世論は「天然独」（独立しているようものじゃないか）=現状維持です。即時台湾独立を主張する台湾政府ができない限り、中国軍の台湾進攻はありません。1月の台湾総統選挙も「即時独立」を主張する候補者はいません。だれが台湾有事を叫んでいるのでしょうか。日本の自民党政府だけです。台湾に行って「戦

う覚悟を」と言ったのは、自民党の副総裁です。

そんななか、今年10月21日（この日は1943年学徒出陣で大学生も戦争に出陣した日）東京で日中永久不再戦を誓うシンポジウムが開かれました。

中国人の戦争被害の補償を求める裁判を闘った弁護士からの発言がありました。強制連行事件の森田太三弁護士、海南島「慰安婦」支援の金子美晴弁護士、平頂山事件の大江京子弁護士、遺棄毒ガス被害事件の富永由紀子弁護士、残留孤児裁判の米倉洋子弁護士が、中国人戦争被害者の要求実現のための闘いの報告がありました。

このあと、登場したのは、元自民党国会議員の野田毅さんです。野田さんは、日本と中国はもう戦争してはいけない、と日本と中国の架け橋となる活動が続けてきました。とくに残留孤児の問題では、残留孤児の帰国に大きな力を発揮し、帰国した残留孤児の皆さんの生活保障のための施策が実現できるように力を尽くしてきました。強制連行の問題でも、裁判外での解決を、と尽力されました。今、西松建設と三菱マテリアルが被害者と和解していません。靖国問題でも戦犯の合祀は間違っていた、と野田さんは言います。東条英機は「捕虜になるなら死ね」という戦陣訓をつくりました。強制連行の閣議決定も東条がやったことです。

野田さんは、未来も日本と中国の平和な共存を語りました。

次回731ネットワークの学習会

## 731部隊の4つの細菌戦

731部隊による農安の細菌散布を明らかにした『金子論文』を発見した奈須重雄さんに、731部隊の4つの細菌戦について語ってもらいます。なお、この録画は「人骨発見34周年集会」（軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会主催）で講演されたものです。

4つの細菌戦とは①1940年・農安細菌戦←病理。疫学データ便での収集、②1940年・衢州細菌戦・寧波細菌戦←非占領地空中散布・効果データの収集、③1941年・常德細菌戦←非占領地空中散布・効果データの収集、④1942年・浙贛細菌戦←戦闘地作戦に附随・効果データの収集、の4つです。

日時：1月17日（水）19時～

講演：731部隊の4つの細菌戦

講師：奈須重雄さん

（NPO法人・細菌戦資料センター共同代表）

参加無料

申込希望者はnobu.goi@gmail.comまで  
定員100名